

平成30年度

令和元年 7月12日 発行
社会福祉法人 新井頭南福祉会
特別養護老人ホームみなかみの里

みなかみの里事業報告

〈基本理念〉

心温かな介護を通じ生きる喜びと
感動あふれる地域社会づくりを目指します。

1. 人と地域を愛します。
2. 確かな介護を提供します。
3. 開かれた施設を経営します。



笑顔に囲まれて・・・



掲載の写真は、ご本人またはご家族の了承をいただいております。ご厚意に感謝申し上げます。

専門職としての知識・技術・倫理を備え、利用者本位のサービスが提供できるよう、年間を通じて様々な研修を実施しました！



研修内容



- ・倫理及び法令遵守について
- ・利用者等のプライバシーの保護の取り組みに関する研修
- ・食中毒の予防及び蔓延防止に関する研修
- ・口腔ケア研修
- ・褥瘡予防に関する研修
- ・KYT（危険予知トレーニング）研修
- ・身体拘束排除のための研修
- ・事故の発生またはその再発防止に関する研修
- ・嚥下に関する研修
- ・認知症ケア研修
- ・感染症の予防及び蔓延の防止に関する研修
- ・高齢者虐待防止研修
- ・看取り研修

～嚥下に関する研修会より～
良い姿勢、悪い姿勢での食事を介助される側として体験

平成30年度特養利用状況

(3月末日現在)



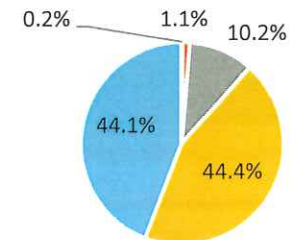
入所・退所者数

入所者数 : 22名
退所者数 : 22名

平均年齢

男性 : 80.0歳
女性 : 89.6歳
全体 : 87.3歳

介護度状況



平均介護度 : 4.16

■ 介護度1 ■ 介護度2 ■ 介護度3
■ 介護度4 ■ 介護度5

ボランティア活動

〈ボランティア実績〉

- 個人ボランティア・・・3名(20回)
- 団体ボランティア・・・4団体(34回)
- 訪問活動・・・7団体(14回)

社会貢献活動の一環として、職員互助会では、世界の子どものワクチン支援『ペットボトルキャップ収集事業』の取り組みを実施しています。30年度は、23,925個のペットボトルキャップ(ワクチン30本分)を収集しました。また、保健医療協力に役立つ古切手回収では、597枚を回収することができました。

30年度も多くのボランティアの方々に、ご協力をいただきました。ご利用者とのお話やお茶出し、園庭整備、車いす清掃など、活動いただきました。また、訪問活動では、舞踊や法話、大正琴など多様なステージを披露していただきました。



年間行事・活動

地域ふれあい納涼会



8月11日山の日に「地域ふれあい納涼会」を行いました。迫力ある太鼓演奏や華やかなフラダンスで会場を魅了♪
また、地域の子どもたちが担ぐ神輿に『わっしょい！』と元気な掛け声が響き、地域の皆様と輪になって踊る盆踊りで会場が一つとなり、夏のひとときを共に楽しみました。



生き生きとした生活

自分らしく、その人らしく

楽しみの一つである外出ドライブ。季節の移ろいを肌で感じたり、好きなものを食べに出かけたり、ご利用者の声を大切に支援させていただきます。

クラブ活動では、思い思いの作品を作る中で、ご利用者の意欲向上に繋がっています。



お花見ドライブ



生け花クラブ活動



誕生日ドライブ



みなかみ祭

7月の第1日曜日は、みなかみの里の創立記念日です。

日頃より、ボランティア活動でご尽力いただいている方々へ感謝状を贈呈し、併せて永年勤続職員の表彰を行いました。

式典では、フルート演奏や職員による踊りでみなかみの里の創立を祝いました。



収穫祭



毎年恒例の『収穫祭』。餅つき大会やリコーダー演奏、職員によるアトラクションで楽しみました。『よいしょ！よいしょ！』と息の合った掛け声でお餅がつきあがっていきます。その後、つくたてのお餅を家族の皆様とテーブルを囲み、秋の味覚を堪能しました。

地域とのつながり



よつばこども園 訪問活動

五者合同防災訓練

地域の保育園や小学校の訪問活動がありました。子供たちの輝く笑顔に、ご利用者も元気をもらい、心温まる時間を過ごすことができました。また、地域の方々からはいろいろな場面でご協力いただきました。

火災を想定しての訓練では、地元協力隊の皆様からも参加いただき有るの際に備えて、地域との連携や体制の確認を行いました。

平成30年度事業活動報告



重度化防止に向け多職種で連携
個々に応じたケアを提供しました

褥瘡改善チーム

ご利用者の褥瘡(床ずれ)に対する危険性を減らすために、多職種で分析を行いました。

現在、褥瘡がある方は改善のため、褥瘡のない方は予防のために検討を行いました。

毎月、検討を繰り返していく中で、以前より褥瘡になるご利用者は減り、褥瘡ができてしまった方も改善が早まっています。3か月に一度、褥瘡ケア計画書を作成し、ご家族の皆様にも目を通していただいています。

嚔下評価チーム

看護職員、栄養士、機能訓練指導員、介護職員、介護支援専門員、歯科衛生士といった多職種で連携を図り、誤嚥性肺炎ゼロを目指し取り組みを行いました。

具体的には、肺炎リスクのある方の飲み込み状況や姿勢等について皆で話し合い、改善のための取り組みを実施しました。その結果、前年度と比較し肺炎にかかるご利用者が減少しました。



移乗サポート介護ロボット導入

移乗サポートロボットHug(ハグ)を導入し、ご利用者の自立支援と介護職員の負担軽減に取り組みました。主に、ご利用者のトイレ誘導時に使用しています。夜間オムツ対応となっていた方にHugを使用することで、トイレ誘導を行えるようになり、ご本人も気持ち穏やかに過ごせるようになりました。

また、介護職員も介助量の軽減や腰痛予防を図ることができました。現在では、トイレ介助をするために、欠かせない重要な存在となっています。



自立と尊厳を支える質の高い
ケアを提供しました
人権擁護チーム

ご利用者の尊厳ある生活環境を創ることを目的に多職種でチームを組み総合的に取り組みを行いました。不適切ケアの排除、身体拘束ゼロを目指し、職員に対して、日々人権に関する知識・技術の発信や研修等を実施しました。

また、日々の介護業務を振り返るため、自己評価を実施しました。結果を集計、分析し、職員間で共有することで、ご利用者に「質の高い適切なケア」が提供できるよう取り組みました。